

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する課題
(1) スーパーグローバルハイスクール	<p>スーパー・グローバル・ハイスクール事業(SGH:H26年度～H30年度)を契機に新しい高校教育の在り方を研究し、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む高校として、その役割を果たします。</p> <p>1 昨年度の取組を踏まえて改善工夫を進め、本校SGH事業の基盤を確立します。 ①総合的な学習の時間『グローバル・マインド』 ②学校設定教科・科目『グローバル・リーダー学』 ③グローバル・アクション ④白熱英語講座 ⑤効果測定</p> <p>2 新たな海外フィールドワーク及び海外語学研修を安全かつ効果的に実施します。</p>	<p>1 SGH取組指標①～⑤は遅滞なく実施。 ①『グローバル・マインド』では1・2年生徒全員が課題研究・論文作成に取り組んだ。 ②土曜授業『グローバル・リーダー学』に、1・2年生111名が受講した。 ③グローバル・アクションでは、SGHスーパー・プレゼンテーション、大学留学生との交流、全国・東海のSGH校と交流、環境美化活動などを実施した。 ④白熱英語講座Ⅰ期103名、Ⅱ期35名が英語で熱心に議論できた。 ⑤効果測定アンケートを2月中旬に実施し、検証した。</p> <p>2 海外フィールドワークにカンボジア16名、中国14名、海外語学研修(オーストラリア)に30名が参加。次年度はベトナム16名を新たに加えて実施予定。</p>	<p>1 『グローバル・マインド』の課題研究論文の完成度を高める手立ての確立。 ・『グローバル・リーダー学』等の講師確保。 ・職員全体の事業とするため、取り組みの深化および担当者の負担軽減。 ・海外留学に関する情報提供及びSGHの取組の進路面からの検証。 ・資料の充実や他図書館との連携。</p> <p>2 ・引率教員の確保。 ・海外研修体験を還元する機会増加。 ・海外修学旅行の検討。</p>
(2) 学級経営・学力向上・生徒指導	<p>生徒の学習状況や生活実態及び学級の状態を把握することにより、学力の向上及びいじめや不登校の未然防止等を図り、生徒の視点に立った理想の学校、理想の学級集団づくりを進めます。</p> <p>1 「ハイパーQ-U」を年2回実施し、学級集団の状況や生徒一人ひとりの状況を把握し、親和的な学級集団の育成に取り組みます。</p> <p>2 生徒が興味関心を示し、内容を理解し学力が向上する授業を実践するために、「授業改善アンケート」を年2回実施し、教員が自己評価・改善することにより、授業の質の向上を図る。</p> <p>3 定期試験、実力試験、実力養成試験などの他に確認テストや宿題テストなどを実施し、個人及び学年集団の学力を分析し、きめ細かい学習指導を行います。</p> <p>1 観察法(授業や日常の対話)の他に調査法(各種アンケート調査)、面接法(個人面談、三者面談)を実施し、生徒の進路に関する不安や友だち関係、家族関係など様々な悩みを把握し、いじめや体罰の未然防止や早期発見を行い、必要に応じて関係機関との連携、スクールカウンセラー(教育相談専門員)や教育相談担当者、養護教諭と連携して生徒一人ひとりを取り巻く環境の改善や心のケアに努めます。</p>	<p>1 ハイパーQ-Uは、よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査で、1・2学年で2回実施し、ほとんどの学級が満足型であった。</p> <p>2 生徒による授業改善アンケートを年2回実施し、4段階の3以上が1回目 87%、2回目 89%であった。</p> <p>3 各試験や、土曜学習会、補習授業などを計画的に実施できた。生徒には各試験結果や学習時間の分析をもとに、きめ細かい学習指導と意欲喚起を行った。</p> <p>1 いじめ調査 3回、体罰調査 1回実施した結果、いじめ・体罰認知数は0名であった。個別面談を年間1年4回、2年4回、3年7回以上実施し、生徒の体や心の悩み等の把握・改善に努めた。特に継続的支援が必要な場合は、ケース会議等で担当者間の連携を密にして支援した。</p>	<p>1 Q-U調査慣れした生徒も見られ、方法を含めた検討が必要。</p> <p>2 ・教材研究するための時間確保。</p> <p>3 ・実力試験に関する評価方法。 ・正確な学習時間データの収集。 ・部活動、教科補習、学習指導等の時間調整。</p> <p>1 ・いじめ・体罰の早期発見、早期対応の徹底。 ・個別面談時に進路以外のことをゆっくりと話すための時間確保。</p>

<p>(3) 学習指導・授業内容の充実</p>	<p>生徒が学力を高めることができる指導を充実させるとともに、アクティブ・ラーニングの手法等を参考に本校独自の学習指導方法を活用し、継続して授業内容の充実に努めます。また、授業時間の確保に努め、学力の保証、充実、伸張に努めます。</p> <p>1 教員が出張で授業が欠ける場合は、時間割変更を徹底し極力自習時間をなくします。</p> <p>2 習熟度講座、少人数講座等を実施し、理解や定着を図り、生徒の満足度を高めます。</p> <p>3 土曜学習会や課外授業(夏期講座含む)を充実させ、個に対応した指導を行います。</p> <p>4 保護者、生徒との希望を把握した上で進路検討会議を実施し、個に応じた進路指導を組織的に行い、生徒の学力、適性にあった進路を実現します。また、保護者に最新の進路情報を提供するとともに、受験への支援や理解を図ります。</p> <p>5 「学力向上戦略会議」(校長直轄)を定期的に関き、授業改善等に先進的な取組を行っている高校の実態の把握、指導方法の工夫、シラバス進捗状況のチェック、学年間情報連携等を行い、学力向上のための戦略と戦術を研究する。</p>	<p>1 自習時間をなくす努力の結果、各クラスの自習回数は年間1回程度であった。</p> <p>2 2年生国語、英語で習熟度授業を実施。おおむね好評であった。</p> <p>3 土曜学習会 12 月末時点の延べ参加者数は、1年 712 人、2年 639 人、3年 342 人であった。課外授業は例年通り実施。</p> <p>4 進路個人面談 4 回以上、保護者面談 1 回以上、進路検討会議 4 回実施し、生徒・保護者の希望進路選択ができた。</p> <p>5 「学力向上戦略会議」を隔週で開催し、進路指導のあり方、大局的な行事計画等を議論した。</p>	<p>1 ・次年度も継続。</p> <p>2 ・数学の習熟度も検討が必要。</p> <p>3 ・生徒のニーズを踏まえた土曜学習会の効率的な運用。 ・2年生課外開始時期の検討。</p> <p>4 ・第1回進路検討会の開催日程の検討 ・会議への傍聴参加教員の徹底</p> <p>5 ・次年度も継続。</p>
<p>(4) 市民性社会性の涵養、人権教育</p>	<p>生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら同時に、市民性・社会性(シチズンシップ)を育むとともに、本校に集うすべての人々が相互に尊敬し合い認め合う心で挨拶を交わす温かい組織風土を培います。</p> <p>1 クラスルームソーシャルスキルトレーニング(CSST)シートの活用、エンカウンターの実施等を取り入れ、生徒相互が育ち学び合える集団を育成します。</p> <p>2 SGHの取組と連携して人権学習を実施し、人としてのあり方・生き方を考え、生徒の人権に対する意識を高めるとともに、関わりのスキル、配慮のスキルを高めます。</p> <p>3 生徒同士、教職員、外来者等に対して場面に応じた挨拶ができるスキルを身につけるために、生徒会役員、室長、運動・文化部の部長が核となった挨拶運動、トレーニングシート等を活用したロールプレーを実施し、生徒のコミュニケーション能力向上につなげます。</p>	<p>1 CSSTを年2～3回実施し、市民性・社会性が涵養された。学年修了時においてほとんどの学級が満足型になった。</p> <p>2 人権教育の観点での公開授業、人権講話を実施するとともに、今年度から各終了後、授業研究会や、生徒有志と講師との懇話会を新たに実施した。</p> <p>3 生徒会、室長、部活動の部長を核とした挨拶推進運動を年5週以上実施したり、挨拶の習慣化に取り組み、徐々に成果がみえた。</p>	<p>1 ・市民性・社会性を育むためのCSSTを「総合的な学習の時間」で実施しているが、更に実効性あるものへと年間計画の精査検討。</p> <p>2 ・現在人権教育では、講演会や全教科授業に取り組んでいるが、次年度は学級単位での人権学習活動も検討。</p> <p>3 ・まだまだ声が出ていない生徒もいるため、粘り強く継続していくことが必要。</p>
<p>(5) 組織力の向上</p>	<p>教育計画や指導方法に関する実質的な議論が行えるように、各種委員会の充実や情報交換会等を設けるなどして組織を活性化させ、全員一丸なって生徒の状況の迅速な把握と対応に努めます。</p> <p>1 教科の指導計画や教材の共有化等を図り、教科内の情報交換を進めます。また各教科、科目指導計画の進捗状況調査を行い、学習指導の品質を整え、充実を図ります。</p> <p>また、質、量の両面から生徒の実態に合った課題が提供されているかについて必要に応じて聞き取り、定期的に検証し、適切な家庭学習が行われているかを把握し、生徒の学力向上につなげます。</p>	<p>1 各教科会を時間割に組み込んで時間を確保し、相互の授業参観(年間参観最低1回以上)や、進捗状況・授業改善・試験の検討・教材の検討等を行った。</p> <p>また、面接や多様なアンケートを実施することによって、生徒の実態を適切に把握している。</p>	<p>1 ・学習指導委員会をパイプ役として、教科会が主体となり、より一層授業改善の取組が行われるよう、管理職・教務部による支援の強化が必要。</p>

、 防災教育	1 各種面談、アンケート調査などの結果から得られた情報、知見をもとに主任会議や各種委員会を定期的に開催し、情報の共有を図るとともに校務分掌や部活動の在り方等も含めた学習者本位の視点から改善点を検討し継続した学校経営改善に取り組みます。	1 学力向上戦略会議をはじめとする各種会議において、情報の共有を図るとともに、学校関係者評価委員会等の助言により、学校経営の改善に取り組んでいる。	1 ・委員会・教科会・学年会等がうまく連動して効果的な運営となるよう、実施時期・内容の確認が必要。
	1 緊急地震速報の活用訓練、津波、火災、地震等やさまざまな災害を想定した実践的な避難訓練を、消防本部の指導助言のもとに実施します。	1 地震、津波、火災を想定した避難訓練や消火訓練、教材を使用した防災教育などを実施した。	1 ・災害時における地区の避難所でもあることから、地域と連携した訓練も必要。

(2)

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の学校経営の改革方針の実現に向けて、組織として努力・実践しようとする意識が高い。 ・SGH等に取り組もうとする進取の精神があり、工夫して実行することができる。 ・教職員の教科指導や進路指導に対する意識は非常に高く、常に授業改善に取り組み、進路指導研修会などに力を入れている。 ・保護者や地域からの高い期待に応えようと努力する職場風土があり、成果も出ている。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間縮減のために部活動顧問の副顧問制を進め、一定の改善はみられたが、まだ不十分である。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数>	3 回
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回実施し、代表教職員との対話形式で運営した。 ・第1回(6/29) …授業見学後、学校経営改革方針、SGHの取組について昨年度結果と本年度計画を説明し、各代表教職員と教育活動について協議した。 ・第2回(11/24) …人権教育の取組、各分掌・学年の中間反省について説明し、今後(5年後)の四高への期待について協議した。 ・第3回(2/8) …本年度の活動報告を行った後、次年度に向けての提言として、各代表教職員と協議を行った。 ・その後、SGH事業の取組「白熱英語講座」を見学した。

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材の育成のため、SGHの取組を、包括的に益々推進して欲しい。 ・興味関心を持って探求する力を培う活動を充実させ、広い視野で積極的に取り組む生徒を増やして欲しい。 ・教職員の授業改善への熱心な取組は高く評価でき、継続・発展を期待する。

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・SGH事業がさらに有効なものになるよう、2年目の成果と課題を踏まえた改善策を取り入れ、全教員の関わりの中で充実させる。 ・新課程や、新しい大学入試等を見据えて、3年間の指導体制について検討を進め、必要な改革を進める。 	